

似島ホタルの里通信

Vol. 6

発行:平成24年3月23日
 発行者:南区魅力発見委員会
 (ニノシマホタルを育てる里人の会)
 〒734-8522
 南区皆実町一丁目5番44号
 南区役所区政振興課
 電話(082)250-8935
 FAX(082)252-7179
 E-mail mi-kusei@city.hiroshima.jp

— ニノシマボタルが自然繁殖できる環境づくり活動をしています —



シオカラトンボ



ニノシマヒメボタル



オンブバッタ

ヒキガエル

脊椎動物門、両棲綱、無尾目に分類され、「ガマ」とも呼ばれる。体長10数センチ、皮膚はざらざらしている。夜行性。

メス1匹の産卵数は2,000~20,000個で、カエルとしては極めて多い。「ガマの油」と呼ばれる毒液を出す。外敵は少ないものの一年以上の成長率はわずか3%。広島県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。



アマガエル

※ホタル池周辺に生息する仲間です。



広島湾に浮かぶ「似島」

もくじ

ニノシマボタルの一生と生態比較・

年度別ホタル飛翔数の推移 2

ホタル観察会の日 3

畑委員会だより 4

『似島を知ろう』コラム・似島の最新情報・

似島に咲く花 5

里人・写真・イラスト・キャラクターを募集 6

ニノシマボタルの一生と生態比較



ホテルの特徴比較

ヘイケボタル

◎色・形・大きさ

全体的に丸く、大きさだけではヒメボタルと区別がつきにくい。背中が黒、胸部の背中側が赤く、はっきりとしたまっすぐの黒い線が通る。

◎生態・発生時期

6月中旬～7月上旬にかけて島内の数ヶ所で見られる。幼虫は田んぼなどの止水で生活する。発光は余り強くなく、揺れるような光を出しながらゆっくりと飛び交い、ヒメボタルと区別しやすい。

現在、日本全国で数が激減し、保護活動団体が増えている。

◎幼虫の餌

- ・サカマキガイ (左)
成貝で殻高約 1 cm、殻径 6 mm
殻は「左巻き」、蓋 (ふた) が無い
- ・ヒメモノアラガイ (右)
成貝で殻高約 25mm、殻径 20mm
殻は「右巻き」、蓋 (ふた) が無い



ハイケボタル

♂ 10mm
♀ 12mm



ヒメボタル

♂ 9.0mm
♀ 7.5mm

ヒメボタル

◎色・形・大きさ

全体的に丸く、大きさだけではヘイケボタルと区別が付きにくい。背中が黒、胸部の背中側が赤く、黒い線が後ろまで届かないことからヘイケボタルと区別することができる。

メスは羽根が退化して
て飛翔することができない。

◎生態・発生時期

6月上旬～下旬の比較的短期間に、林の中で見られる。

発光は短い間隔でフラッシュをたいているような
光り方で、ヘイケボタルに比べると強く感じる。
光の色は、ヘイケボタルと比べてやや黄色がかっ
ている。

(似島では水がない山林内でも見られます。)

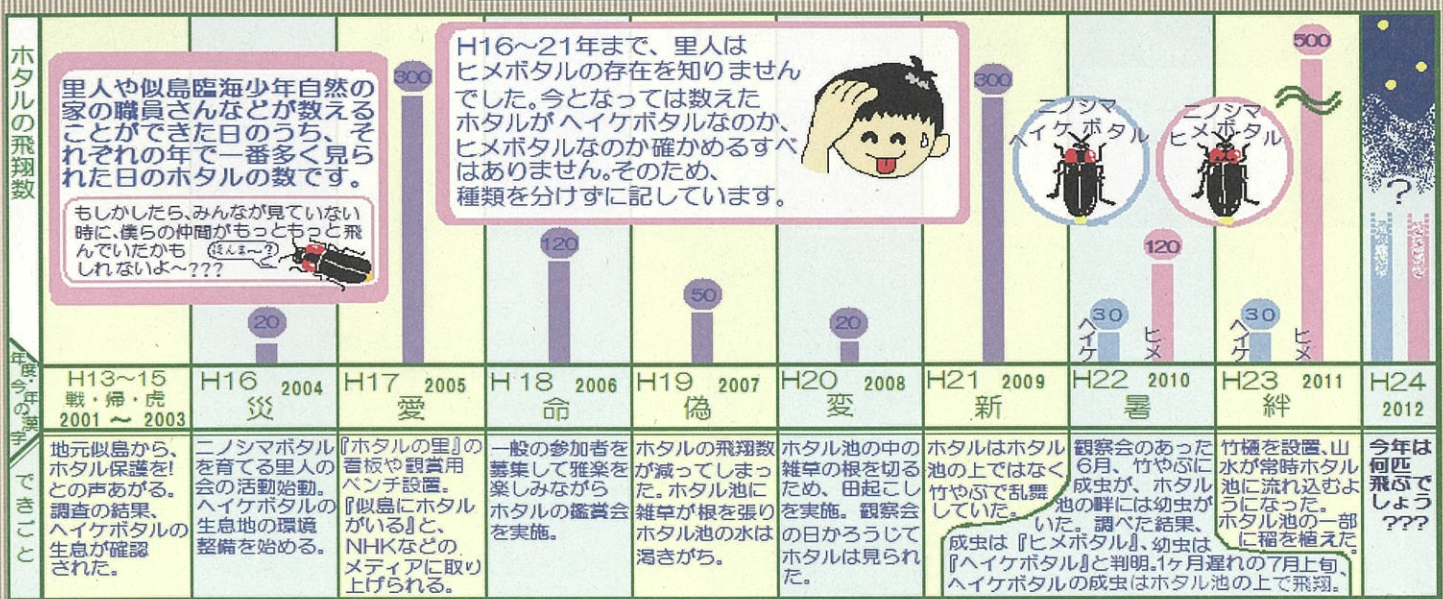
◎幼虫の餌

ヘイケボタルと異なり、幼虫は陸上に住み、カタツムリやナメクジの仲間を食べる。

※ホタルの生態は、インターネット等で紹介された一般的なものを基に説明しています。

年度別ホタル飛翔数の推移

※ 似島ではゲンジボタルの生息は確認
されていません



平成23年6月4日・5日

ホタル観察会の日

おとさん、
何かある～？

待ってみいよ
何があるかなあ？

12:30 宇品旅客ターミナル時計台前集合（1日目）

13:20



オリエンテーション
スタッフを含む参加者全員の顔合わせをしています

14:00



海辺の生物観察会
講師の話に聞き入っています



海辺の観察
生命の起源は海の中、
生物の種類の多さに驚きます

16:00～17:00 ホタル池の整備

19:00～20:30 ホタルかご作り体験

19:00



ストローを使った
ホタルかご作り体験



ホタルかごづくりの原点は
各パーツ作りから

ホタルかご作り
ストローで練習した後は
本物の麦で作ってみました

21:00～22:00 ホタル観察

うわぁ
このニジマヒキガエル
太さ～い！

よしよ、
よしよ



暗闇に光るホタルの撮影は難しく
今年こそその思いで再撮影にチャレンジです
（この写真は特殊加工をしています。）

暗闇にきらめくLEDのよう。
星空のようなホタルの光は
撮影が難しいです。

9:00～11:00 バウムクーヘン作り、昼食準備（2日目）



バウムクーヘン作り
焦がさないように、ゆっくり焼き上げるのがコツでした



みんな一緒に昼食づくり
カレー、ギョーザ、サラダ…、美味しかったな～

15:20 宇品桟橋前解散

参加者の感想

一年間この日のために里人のみなで頑張ってきました。
たくさんの蛍の飛翔を見ることができて、感激しました。
バウムクーヘン作りも美味しくできて、楽しかったです。
また沢山の蛍を見たいです。



似島と菓子伝説「バウムクーヘン物語」

似島は、広島港から南5.3kmの瀬戸内海に浮かぶ、面積3.96Km²、外周16kmの島です。沿岸部を周遊する道路延長は約10km、瀬戸内海国立公園に指定されています。

終戦までは、明治・大正・昭和と三代にわたって戦場から帰国してきた兵士の検疫を行う陸軍検疫所が置かれ、帰還兵士を出迎えた桟橋や弾薬庫跡、井戸、壕跡が今もなお残っています。第一次世界大戦中（1914年～1918年）、捕虜として収容されたドイツ軍兵士「カール・ユーハイム」が、日本で初めて焼いたバウムクーヘンを物産陳列館（現在の原爆ドーム）に出品したことから、似島は『バウムクーヘン日本発祥の地』として知られ、南区七大伝説の一つ「菓子伝説」の地として紹介しています。

畑委員会

はたけのみんなから だより

1年目	2年目	3年目
2010(H22)	2011(H23)	2012
春6月 開墾。ジャガイモ等植える。	2月夏 麦の収穫。	2月 麦踏み。
夏11月 夏野菜作り。収穫物でカシ。ホタル観察会。	夏10月 夏野菜作り。収穫野菜でカレー作り。	冬野菜作り。芋掘り。麦の種蒔き。

はじめての ホタルかご with 麦わら!!

里人の、里人による、里人のための!!!

秋。里人農園に初めて蒔いた、一粒の麦は、

やがて芽吹き、

冬を耐え、

春。立派に実をつけました。

あまり手をかけていないのに大収穫です。麦作りってラク勝じゃん!! そう思いました!! とろろがどうこい

本当は、麦がしつかりがんばってくれたおかげなんですよ。

ホタルかごに使う麦わらの下ごしらえが、じつは、とても、とても大変だったのです。

ホタルかご作りには、一番上の節だけを使います。

上(太い) 下(太い) 麦わらの中は空洞。ストローとはもともと麦わらのことです!!

編むとき、さいこんでつないでゆきます。

純似島産麦わらで作ったホタルかごは、苦勞した分だけ、心なしか美しく輝いて見えました。

ホタルが逃げられるよう、下にすきまあり。

人々は、自然の野山に手を加えて田畑や里山として利用してきました。ヘイケボタルなど、様々な生きものは、農の営みという人の手が入ることによってよりいっそう豊かになった自然を利用して生きてきました。

そんな生き物と人とのかかわりの原点に近づいてみたいという壮大なココロザシと、ほんのちょびつとの食い意地とで始めた箱庭農業・里人農園は、開墾から丸二年を迎えました。

季節の野菜作りの他に、去年は麦を育てて、ホタル観察会では麦わらでホタルかごを作りました。この『ホタルの里通信』発行時には二代目の麦が青々と育っている頃。また、昨夏には約半世紀前まで田んぼだった、今の『ホタル池』にほんの少し古代米を植えてみました。



こまごまとした課題はありますが、さあ、今年はホタル&農園の物語をどう紡いでいきましょう。まずは、お米をもう少し植えてみましょうか。何はともあれ今年もホタルと作物がたくさん育ちますように・・・。

活動の足跡

11月26・27日に開催された“にのしま愛らんどフェスタ”に初参加し、里人の会のPRをしてきました。このパネルは、似島合同庁舎1階のロビーに展示してありますのでご覧ください。

似島臨海少年自然の家にも“ニノシマボタルコーナー”ができました。島の魅力もお伝えできるよう、掲示物を随時更新していきます。



似島臨海少年自然の家内の“ニノシマボタルコーナー”



にのしま愛らんどフェスタ時の展示

似島を知ろうコラム

【ニノシマの歴史③】

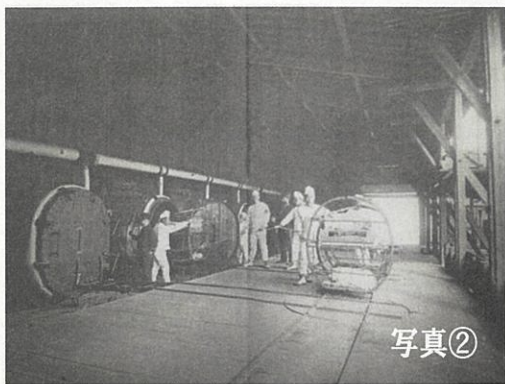
写真・文責 宮崎 佳都夫

－ 疫病(感染症)侵入の防波堤となった施設の遺構 －

今年、全国各地でインフルエンザが大流行し、警報が発令されています。

その昔、江戸末期から明治時代には海外から伝染病が侵入し、殊に「コレラ」による大流行では、その都度、数万人から十数万人もの命が奪われていました。

近代日本における初の対外戦争であった日清戦争時には、戦場となった朝鮮半島や旧満州南部、澎湖島（台湾）などでコレラが蔓延し、戦闘死のみならず感染病死者が続出していました。講和後の日本将兵の帰還には患者や病原菌の国内への持ち込みが喫緊の命題となり、軍は臨時陸軍検疫部を設置し、検疫所の建設、検疫の施行など全ての対策の責任者に医学者であった後藤新平を任命しました。



写真②

後藤氏は明治28年（1895）4～5月の

二ヵ月間足らずで似島（広島）、彦島（下関）、桜島（大阪）に陸軍検疫所を建設し、6月から帰還将兵の検疫を「消毒法心得（写真①）」に従い、「高圧蒸気罐（写真②）」などで滅菌消毒を実施しました。

中でも似島検疫所は飛び抜けて規模が大きく、13万7千人有余の将兵を検疫し、コレラ菌などの病原菌の国内への侵入阻止に貢献しました。検疫所建設から117年を経た現在、往時を偲ばせる遺跡、遺構は殆ど現存していませんが、現似島学園高等養護部の近くに赤煉瓦で積み上げた煙突の一部が残置されています。この遺構は検疫所時代に病原体で汚染された感染物、もしくは汚染されていたであろう物品などを焼却していた焼却施設（炉）の煙突部分です（写真③）。

この焼却炉は病原体の国内侵入を防御し、国内での患者発生予防に大きく寄与した遺構の一つと云えます。

この煙突を詳細に観察すると、レンガの積み方が二つの様式になっています。最初に築き始めた下部はイギリス積でしっかりと組まれています。前記のとおり、検疫所が二ヶ月弱という急ピッチで建設された事由から、中途から上部は不完全な積み方となり、破損した箇所が多く観られます。似島を訪れる機会があれば足を運ばれては如何でしょうか。

（注） 写真

- ①：臨時陸軍検疫部制作「消毒法心得」
- ②：似島臨時陸軍検疫所蒸気消毒室の既消毒側
- ③：現存する感染物・汚染物焼却施設（炉）の煙突



写真①



写真③

似島に咲く花 － ヤマボウシ －

6月上旬の昼下がり。

「ホタル池」を見下ろす山裾に、白い清楚な花がハンカチを振るかのように手招きをしていました。

近づいてみると、白く花びらのように見えたのは「ヤマボウシ」。

花に見えていた部分は総苞片で、中央の球状に集合している淡黄色の部分が花。

ホタル観察時、ヤマボウシにも会いに行ってみませんか？



山法師、別名はヤマグワ。ミズキ属の落葉小高木。日本各地の山野に生え、高さ5～10m。幹は灰褐色。葉は対生し、卵状楕円形で長さ4～12cm、全縁でやや波打つ。

6～7月に淡黄色の小さな花が20～30個集まって球状の花序をなす。外側に花弁のように見える長さ3～6cmの4枚の総苞片をつける。実は9～10月頃赤く熟し、マンゴーのような甘さがあり食べられる。

最新情報

似島臨海公園内の「元 陸軍検疫所跡」の井戸水が南区で初の原爆献水に採用されました

「兄も最後に飲んだ水かもしれない・・・」

8月6日の朝、原爆死没者慰霊碑に捧げる原爆献水として、南区から初めて似島臨海公園内（元 陸軍検疫所跡）にある井戸水が採用されました。



献水は午前8時から始まる平和記念式典に先立ち行われるもので、市民代表が竹筒に入れた水を慰霊碑前に置かれた樽に注ぎ、犠牲者を悼みます。昭和49年（1974）から続く献水は、市内16か所から集められていますが、南区からの献水はありませんでした。

当日は、地元代表として里人の会の会員でもある宮崎さんが井戸水から汲んだ慰霊の水を手向けられました。



☆会費 不要。

(ただし、交通費、飲食代、
観察会時の宿泊費等は
各自実費負担)

フェリー(片道) 大人 380 円

小学生 190 円(平成 24 年 3 月現在)

☆入会資格 老若男女、年齢不問。

活動の趣旨に賛同していただける方。

☆服装 作業しやすい服装でご参加ください。

☆お申込み・お問い合わせ先

〒734-8522

広島市南区皆実町一丁目 5 番 4 4 号

広島市南区市民部区政振興課※

「ニノシマボタルを育てる里人の会」

電話 (082) 250-8935



平成 24 年度ニノシマボタルを育てる里人の会活動計画(予定)

4 月ー観賞エリア内の草刈、田植え準備、年間活動計画の検討

5 月ー観賞エリア内の草刈、田植え準備

6 月ー 1 泊 2 日ホタル観察会(ヒメボタル)

①観察区域内環境整備(取水路整備等)

②星座観察会

③ホタルかご作り

④バウムクーヘン作り体験など



7 月ー 1 日帰りホタル観察会(ヘイケボタル)

①観察区域内環境整備(草刈等)

②ホタル観察

8 月以降ー適宜、草刈等ホタル池環境整備

※2 ヶ月に 1 回程度

1 2 月ーホタルかご用の麦の植付け

ホタル通信編集会議

(3 月まで延べ 3 回程度開催)

◎その他、随時の畑作業も体験できます

第1回ニノシマボタル 「写真・イラスト・キャラクター」コンテスト

【 募集要項 】

1. 募集内容: 「ニノシマボタル」をコンセプトに実施する写真・イラスト・キャラクターを募集します。
入賞作品は、本誌会報等に使用します。
2. 募集期間: 平成 24 年 6 月 1 日(金)～平成 24 年 7 月 31 日(火)(必着)
3. 撮影対象エリア: 似島全域
4. 応募資格: 不問、応募者本人の作品に限ります。
5. 応募可能点数: 1 人各 2 点

※点数超過の応募があった場合には全ての作品が無効です。

6. 応募方法: 写真データサイズ: 3. 2 M (2,048×1,536) 以上

イラスト・キャラクター: A4 サイズ以内

応募作品ごとに作品タイトル、撮影日時、応募者住所・氏名・電話

番号を明記した用紙を、応募作品裏面に添付あるいは、直接明記し、

南区役所区政振興課※(〒734-8522 広島市南区皆実町一丁目 5 番 4 4 号) まで郵送または、
持参にてご応募ください。

7. 審 査: 募集期間終了後、本会で審査します。審査時期は平成 24 年 9 月下旬頃の予定です。

8. 入賞作品数: グランプリ(1 点)、優秀賞(3 点)

9. 賞 品: 平成 25 年ホタル観察会「無料優待券」(フェリー代、自然の家の宿泊費・食事代)

10. 発 表: 審査結果の発送をもってお知らせします。



※(H24.4組織改正により課名変更:地域起こし推進課)